

No. 38	昭和52年10月31日発行 編集者：後藤光男 〒591
ねじればね	堺市百舌鳥西之町1丁98の2 陵南団地1号棟116号 電話 堺(0722)57局7009番
	日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文方
Oct, 1977	

ボックスファイルについて

後藤光男

日々受取る学会誌・同好会誌・連絡月報や図書案内その他諸々の印刷物はその都度整理しないと、すぐ相当量が溜ってしまう。甲虫関係だけでなく昆虫全般からクモ更にその他に間口を拡げておればそれだけ多岐に渉るので整理が大変である。単行本とか厚頁の印刷物であると続けて並べるだけで片付くが、薄頁のものやパンフレット・チラシ類等は余程根気よく整理に心掛けていなければ紛失の恐れもあり、会費を払っている上に欠号をバックナンバーとして買い整えねばならないという二重の出費も余儀なくされることもある。私が載いた別刷等は書籍外箱型のファイルを作らせて著者別に分類保存している。薄頁のものやその他は分類項目を仮に定めてバインダーに厚ポリ袋で綴込んだり、リーフ用紙に貼って仮保存している。ある程度に巻号が揃ったり、内容と厚さが纏まれば本誌第32号に書いた仮製本かポリパイプで合本整理している。我々に欠くことのできない国土地理院の地形図もその行動範囲が拡がるに従って必要な地域を揃えなければならない。従来の5万分の1の白黒から更に4及び5色刷へ、又加えて2万5千分の1の発行範囲も拡まっているので両方を揃えるということになれば相当量になるので地域単位での分類整理が必要となってくる。

私は別刷整理用ファイルの予備が無くなったので現在は角型封筒の3・6・8号と厚ビニール袋を2穴ファイルへの綴込みで急場を凌いでいる。しかし余程こまめでなければ整理の進む一方で未整理のものが溜り続けるという状態になる。又常時必要とするものについては整理ファイルよりとり除いてその物だけを纏めておいた方がよく、必要時に即座に引出せる利点も考慮しなければならない。標本整理も必要であるが、これと併用して文献

- 印刷物等の分類整理も必要である。

箱型ファイルも角型封筒も内容物の出し入れが頻繁であれば共に痛みが早いのは当然で、ある程度纏まるまでの仮整理と整理後の保存の両面に使用できるファイルを考えて見た。

幸い手許に数社の事務器機用品の総合カタログがあったので調べて見たら市販の保存文房具ではファイルでは2穴、バインダーでは4・20・26・30穴でいずれもリーフ用紙か、穴あき厚ビニール袋やポリ袋を綴込むのが殆んどであった。幸い私の希望する多目的の投げ込みファイルはL社のカタログに「ストックファイル」の名称で掲載されていた。それは赤・黒・藍3色の表地に黒の裏地を組み合わせたシンプルでカラフルなビニールレザー製でA4版(310×230×60mm)とB5版(266×200×60mm)の2種類であった。又K社の製品も店頭で見掛けたが、これは「ブックファイル」の名称で硬質ビニールの骨組にビニールレザー板を組込むB5版でやや軟弱な感がした。L社のA4版を数冊買求めて仮整理用に使っているが仲々便利である。強いて難点を挙げると高さが31種あるので棚の高さが最低32種以上が必要であり、価格が1冊千円弱と案外高価である2点で、保存内容物から考えて少しく上等すぎる感じである。

増えることがあっても減ることのない文献その他等を体裁よく整理と保存が効果効率的で、その上必要に応じた好みの寸法に細工ができて費用が僅少ですむという点を考慮して材料のビニールレザーを段ボール紙に置き替えて見た。

現在の包装材料は一部のものを除いて従来の板材・厚板ボール紙から段ボール紙に変わっており日常生活にまで入りこんでいるので、家庭でも容易に入手できる。一般に外装には厚段ボール紙を、内装には中厚か薄段ボール紙が使用されて、夫々A段ボール紙(厚・大波)、B段ボール紙(中厚・中波)、C段ボール紙(薄・小波)と呼ばれている。ボックスファイルには中厚のB段ボール紙が適当と思われる。

仕様は別図の通りであり寸法は3種類掲げておいたが、巾を広げたり又深くすることは好み次第である。I型はB5版サイズを3号角型封筒に、ロ型はA5版サイズを6号型封筒に入れたまま整理保存でき、ハ型は国土地理院の地形図の図面部を八つ折した寸法に合わせて見た。一枚の段ボール紙で好みの仕様寸法がとれるものが手に入るなら貼合せも少なく仕上りも揃うので都合がよい。この場合にI型は345×570mm、ロ型は295×460mm、ハ型は300×460mmの紙面が必要である。なにも一枚のものでなくても切断各片の貼合せでもよい訳であるが、各片とも正確な寸法で直線に切断されていないと貼合せてから不揃いであつたり変形した仕上りとなる場合が多い。

作り方は仕様図を参考にして収容物を勘案して好みの寸法に段ボール紙面に線引する。

仕様図の黒線は切断を、点線は紙の片面のみの切り込みを示しているが、この切り込みの部分にV型に押し込んでおくと折り込みも簡単で仕上がりも美しい。切断と切り込みが終った段階でI型の場合背面の下端から6種の位置(ロ・ハ型ではこれに準じて)を中心として直径2.5mm内外の丸穴をポンチであけておくと引き出すのに便利である。点線部を内側に折り込み、各片が接する部分は同色の細巾紙かスコッチテープ(セロテープは年月が経ると接着面が褐色となり接着能力がなくなることが多い)で貼り合せ、背面に白色か好みの色の紙片を分類見出しとして貼り付ければ出来上りである。

最近の日刊誌でU社のファイル群の広告を見た。この中に“ボックス・ファイル”の名称で掲載されていた箱形ファイルは横位置で色や価格は書かれていなかったが、説明ではポリプロピレン製でジョイントクリップが付いていて、机上に連結して並べられ安定がよいと記されていた。

ポリパイプによる合本と製本

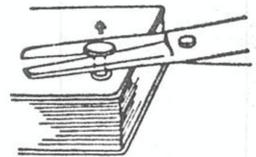
後藤光男

ボックスファイルについての文中で触れたポリパイプはL社のカタログに「ポリパイプ」の名称で掲載されていたもので、 $\phi 4 \times 60$ mmと $\phi 5 \times 80$ mmの2種類があり簡単に合体と製本ができる。

合本か製本を必要とする学会誌、同好会誌その他の書類に2穴・鳩目・電動パンチ等で2~4の穴をあけポリパイプを差し込んで反対側に止具を差し込むだけである。後日綴り増しの必要があるのならパイプは切断せずそのままにしておけばよく、綴り増しの必要がなければ余分のパイプを切り落とす。又将来全く外す必要のないものについては、止具に接着剤を塗付して差し込んでおけば永久に外れることはない。名称の示す通り軟質ポリプロピレンでできているので鋏で簡単に切り離せる。合本か製本の時、厚手の色表紙を厚さに合せ表紙とし全体にかぶせて背面に内容表示をすればより効果的である。

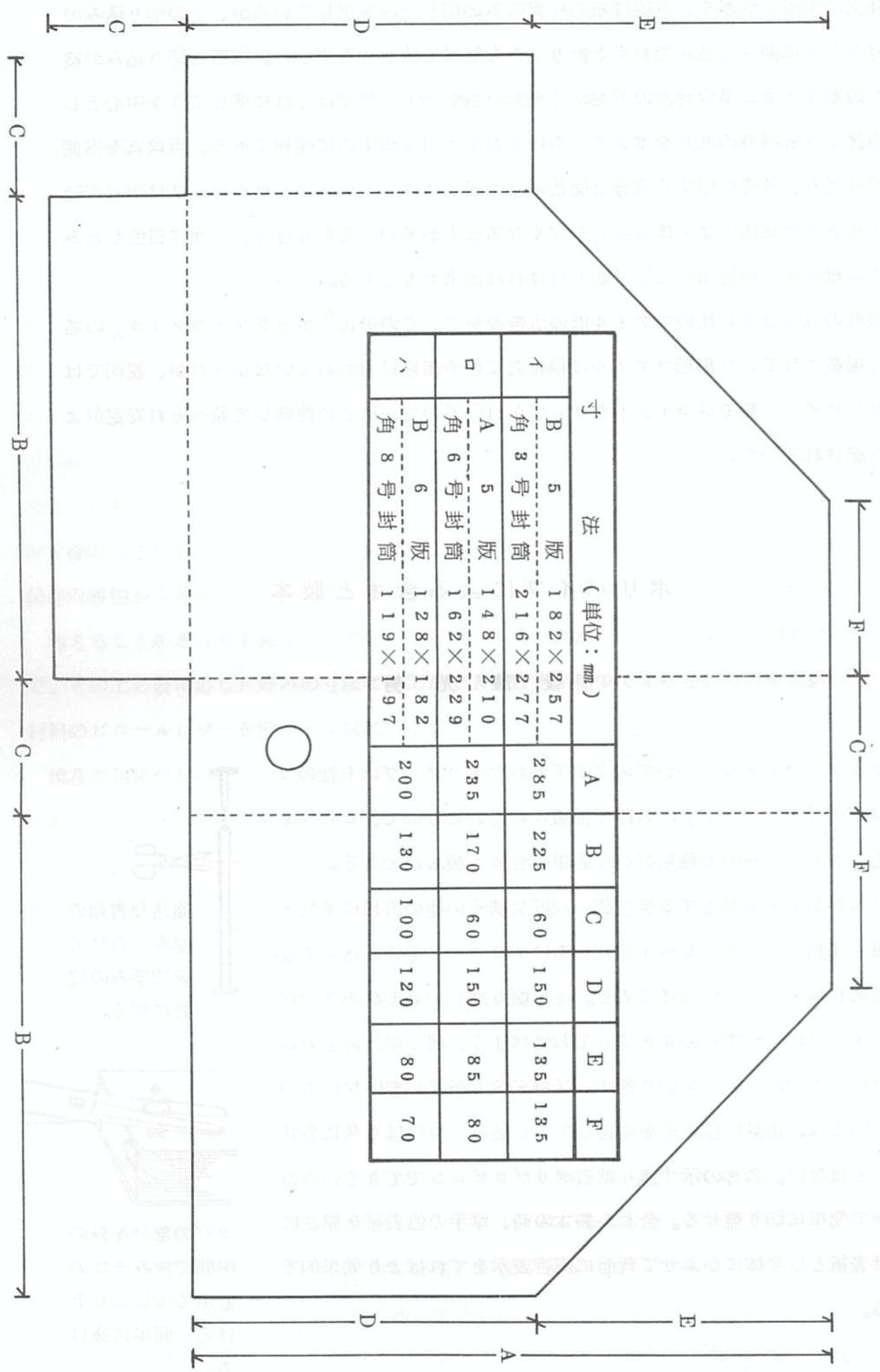


綴込む書類の厚みに合せて鋏で望みの位置に切る。



ツバの部分に鋏の中間で挟みテコの応用で少しこじ上げると簡単に抜ける。

ボックスフレイ尔仕様図



昭和51年度収支決算書

員 会 入 課

自 昭和51年 1月 1日
至 昭和51年12月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	883.800	印 刷 費	664.800
バックナンバー代	178.700	通 信 費	128.815
別 刷 代	40.100	消 耗 品 費	4.250
原色昆虫図鑑印税 [※]	150.874	大 会 費	14.800
雑 収 入	90.817	幹 事 会 費	12.760
前 期 繰 越 金	109.935	雑 費	3.00
		次 期 繰 越 金	628.501
計	1,454.226	計	1,454.226

※ 会報発行基金として現在までに繰入れられた印税会計 1,572.224円

特 別 会 計 収 支 計 算 書

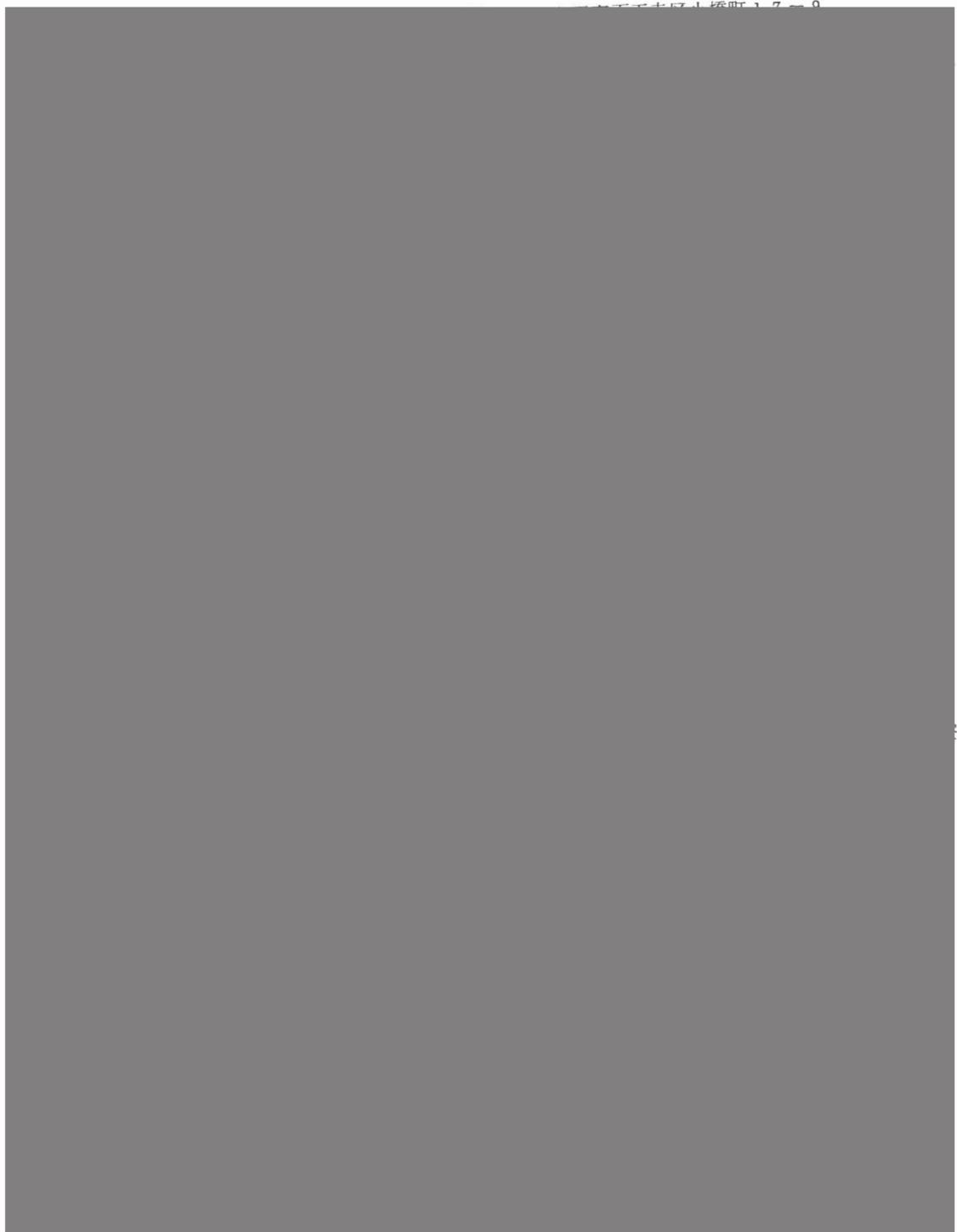
(会 報 発 行 基 金)

昭和51年	1. 1	前 期 繰 越 金	819.559
	1. 2 0	20万円貸付信託収益金(50. 7.20~51. 1.19)	6.314
	3. 2 6	金 銭 信 託 収 益 金(50. 9.26~51. 3.25)	5.039
	5. 2 0	45万円貸付信託収益金(50.11.20~51. 5.19)	14.554
	7. 2 0	20万円 // (51. 1.20~51. 7.19)	5.824
	9. 2 6	金 銭 信 託 収 益 金(51. 3.26~51. 9.25)	3.781
	1 1. 2 0	35万円貸付信託収益金(51. 5.20~51.11.19)	10.192
	1 2. 3 1	次 期 繰 越 金	<u>865.263</u>

新 入 会 員

青 島 市 地 方 志 局 編 印

青 島 市 志 局 編 印 1 7 0 0



住所変更





退 会



認 定 退 会



— 原 稿 募 集 に つ い て —

「昆虫学評論」の原稿を募集します。甲虫関係には限りません。少々長文でも結構です。表紙裏の投稿規定をご熟読のうえ、どしどしご投稿下さい。ただし、図版はできるだけ、横 20 cm、縦 30 cm にアレンジして下さい。また、本文中の図はその挿入個処を必ず原稿の欄外に明記するとともに、図の説明は本文の末尾（図版がある場合には図版説明の後）か、別紙に図の番号順に記入して下さい。

和文原稿の場合は、なるべく当用漢字を使用し（専門語は別）、句読点（、。）を使わず、必ずコンマ・ピリオドを使用して下さい。なおまた、短報もどしどしご投稿下さい。

（最近、図を書きばなしで、未整理のままの投稿が時々ありますが、必ず図版に作成して下さい。）

“昆虫学評論”バックナンバー価格表

当会のバックナンバーの価格は下記のとおりです。なお、各巻の1号または2号の分冊売りはいたしません。

第1～4巻(分冊売りはいたしません。第2巻第1～5号、第4巻第1号は欠号です)全部で400円

第5巻 第2号(第1号は欠号です) 500円

第6～10巻 各巻につき1,000円 5巻全部では5,000円

第11～15巻 “ ” “ ” 5,000円

第16～20巻 “ ” “ ” 5,000円

第21～25巻 各巻につき1,500円 “ ” 7,500円

第26～28巻 各巻につき2,000円 3巻では6,000円

第29巻 2,500円

総目録：第1～10巻、第11～15巻、第16～20巻、第21～25巻をそれぞれまとめて購入される場合は、その当該目録は無料で差しあげます。送料はすべて学会で負担しますから無料です。

——— 標本整理の季節です。各種整理用具を取揃えています ———

- 好評を得ましたデータラベル印刷用極小活字セットは主要文字と80年までの数字を増し基準セットとして在庫しています。
- 標本用各種ラベルの内K(灯火採集表示用)とO(二重線枠のみの任意表示用)はコマ数を増して新しく印刷しました。他は従来通りです。
- 甲虫専用台紙・名札差も在庫しております。
- ボックスファイルのI型とH型ご入用であれば作らせることができます。
- ポリパイプも近所の文房具店で購入ができます。

——— 見本(〒50円)・価格は後藤までご照会下さい ———

あ と が き

今年も5月中旬来昨年と同じく拙宅のベランダに青色蛍光灯2個を設置して飛来昆虫を調べていますが、飛来昆虫の個体数は昨年に比べて非常に少なくて、これは本年の気候が大変異常で全般的に見て乾燥気味であったことが原因だと思います。又夏期には関東地方では記録的な日数の雨天が続き、反面関西地方はきびしい暑さの晴天続きでした。採集も一部の地方では好成績であったようですが、全国的に見て昆虫界も不作の年であったといえそうです。向寒の折皆さまの益々のご健祥とご健斗を祈ります(5103)